

長崎神学校創立150周年

パリ外国宣教会の司祭たちは信徒発見からわずかな月後、司祭館の屋根裏に少年たちを住ませ、教理とラテン語を教えた。この隠れ家を利用し始めたのが無原罪の祝日の8日間だったことから、この場所を「無原罪の御宿りの間」と呼ぶようになった。これが長崎神学校の創立であり、無原罪の聖母を守護の聖人として仰ぐようになった経緯である。

12月20日(日)浦上教(旧・長崎公教神学校)会において、長崎神学校の卒業生らが祭壇を囲み、創立150周年を記念し、喜びを分かち合っ



意を表し、司祭召命の豊かな実りを神に願う。また、「150周年という節目にあるにもかかわらず、召命の現状を見ると危機感を覚える。これは神から私たちへの問い掛け、今でもそれぞの主教区で大切な役割を担っている。神学校での生活は、途中でそこを去ったとしても意味があること。同じ釜の飯を食った仲間には、決して切れることのない結婚の不解消のよう



かつての神学生たちは、久しぶりの再会を喜びながら、「同じ釜の飯によって育まれた絆」を再確認した。

12月13日(日)13時から佐々教会において、平戸・佐世保地区共催による戦後70年記念行事と「いつくしみの特別聖年」開年記念ミサが行われた。



「最近、何で西坂ではミサをせんことになったと？」カトリック信者でない知人から問われた。長崎駅近くで働く彼は、二十六聖人殉教記念ミサに集まる人々を見るたびに、「2月5日」を意識するようになったという。皆さんの信者たちが坂を登って集まる、ミサが終わると坂を下って家路に就く……。その姿に祈りを感じていたそう。現在、参加者の便宜を考えて西坂でのミサは日曜日に変更され、2月5日にも聖フィリッポ教会で1日1回にわたって祈りがさげられている。しかし、日曜日休みの彼が「2月5日」を意識することはもうないのかもしれない。▲上五島に、地元の信者が御礼山と呼ぶ場所がある。信仰を守るために逃れてきた人々や子孫たちは、そこに立つて故郷の



「いつくしみの特別聖年」が始まる

2015年12月8日(無原罪の聖母)から16年11月20日(王であるキリスト)までの、「いつくしみの特別聖年」の開年ミサが昨年12月13日(日)、司教座聖堂である浦上教会で行われた。15時、ミサに先立ち教会下の信徒会館で入堂式があり、高見三司教司式、司祭団30人余の共同司式のもと修道者・信徒らが参加し、カテドラルへの巡礼の旅を表す行列へと続いた。聖堂入り口に到着後、大司教は扉の前に立ち、「正義の門よ、扉を開け。中に入って神に感謝しよう」と言いつて扉を押し開き(写真)、「これは神の門。この門を通って中に入り、いつくしみとゆるしをいただこう」と呼び掛けた。「いつくしみの扉」が開かれた教会で、約500人の信者が祈りをささげた。

奈留・南越教会が閉鎖

60年にわたる祈りの家に感謝

奈留小教区の巡回教会・南越教会が、昨年12月、教区顧問会の承認をもって閉鎖することとなりました。

平和と神のいつくしみを胸に

平戸・佐世保地区、戦後70年と聖年開年を記念

12月13日(日)13時から佐々教会において、平戸・佐世保地区共催による戦後70年記念行事と「いつくしみの特別聖年」開年記念ミサが行われた。

「最近、何で西坂ではミサをせんことになったと？」カトリック信者でない知人から問われた。長崎駅近くで働く彼は、二十六聖人殉教記念ミサに集まる人々を見るたびに、「2月5日」を意識するようになったという。皆さんの信者たちが坂を登って集まる、ミサが終わると坂を下って家路に就く……。その姿に祈りを感じていたそう。現在、参加者の便宜を考えて西坂でのミサは日曜日に変更され、2月5日にも聖フィリッポ教会で1日1回にわたって祈りがさげられている。しかし、日曜日休みの彼が「2月5日」を意識することはもうないのかもしれない。▲上五島に、地元の信者が御礼山と呼ぶ場所がある。信仰を守るために逃れてきた人々や子孫たちは、そこに立つて故郷の

正義の門よ 扉を開け

「いつくしみの特別聖年」が始まる

2015年12月8日(無原罪の聖母)から16年11月20日(王であるキリスト)までの、「いつくしみの特別聖年」の開年ミサが昨年12月13日(日)、司教座聖堂である浦上教会で行われた。15時、ミサに先立ち教会下の信徒会館で入堂式があり、高見三司教司式、司祭団30人余の共同司式のもと修道者・信徒らが参加し、カテドラルへの巡礼の旅を表す行列へと続いた。聖堂入り口に到着後、大司教は扉の前に立ち、「正義の門よ、扉を開け。中に入って神に感謝しよう」と言いつて扉を押し開き(写真)、「これは神の門。この門を通って中に入り、いつくしみとゆるしをいただこう」と呼び掛けた。「いつくしみの扉」が開かれた教会で、約500人の信者が祈りをささげた。

奈留・南越教会が閉鎖

60年にわたる祈りの家に感謝

奈留小教区の巡回教会・南越教会が、昨年12月、教区顧問会の承認をもって閉鎖することとなりました。

平和と神のいつくしみを胸に

平戸・佐世保地区、戦後70年と聖年開年を記念

12月13日(日)13時から佐々教会において、平戸・佐世保地区共催による戦後70年記念行事と「いつくしみの特別聖年」開年記念ミサが行われた。

「最近、何で西坂ではミサをせんことになったと？」カトリック信者でない知人から問われた。長崎駅近くで働く彼は、二十六聖人殉教記念ミサに集まる人々を見るたびに、「2月5日」を意識するようになったという。皆さんの信者たちが坂を登って集まる、ミサが終わると坂を下って家路に就く……。その姿に祈りを感じていたそう。現在、参加者の便宜を考えて西坂でのミサは日曜日に変更され、2月5日にも聖フィリッポ教会で1日1回にわたって祈りがさげられている。しかし、日曜日休みの彼が「2月5日」を意識することはもうないのかもしれない。▲上五島に、地元の信者が御礼山と呼ぶ場所がある。信仰を守るために逃れてきた人々や子孫たちは、そこに立つて故郷の



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
大 水 文 隆
印刷所
株式会社 藤木博英社

右近の列福承認

教皇フランシスコは1月21日、神のしもべユスト高山右近を殉教者として正式に認定し、福者の列に加えることを承認する教令に署名した。1月22日発表。列福式の時期・場所・司式者は未定。

12月15日(火) 教区顧問会
が司教館で開催され、次の議題が審議承認された。

①日本キリシタン歴史博物館(仮)について、前回提出された案より大幅に予算を抑えた計画案が提出され、おおむね了承された。

用するため、五輪教会の司祭館の一部を五島市に賃貸する契約を結ぶ。

⑦ドリームカムホームとの土地建物使用貸借契約をさらに1年間の継続とする。

「最近、何で西坂ではミサをせんことになったと？」カトリック信者でない知人から問われた。長崎駅近くで働く彼は、二十六聖人殉教記念ミサに集まる人々を見るたびに、「2月5日」を意識するようになったという。皆さんの信者たちが坂を登って集まる、ミサが終わると坂を下って家路に就く……。その姿に祈りを感じていたそう。現在、参加者の便宜を考えて西坂でのミサは日曜日に変更され、2月5日にも聖フィリッポ教会で1日1回にわたって祈りがさげられている。しかし、日曜日休みの彼が「2月5日」を意識することはもうないのかもしれない。▲上五島に、地元の信者が御礼山と呼ぶ場所がある。信仰を守るために逃れてきた人々や子孫たちは、そこに立つて故郷の

高山右近、良心に生きた キリシタンの証し

イエズス会司祭 デ・ルカ・レンゾ



はじめに

教皇フランシスコは1月21日、ジュスト高山右近(1552〜1615)を殉教者として正式に認定し、福者の列に加えることを承認する教令に署名された。殺害はされなかったが、殉教者あつかいされる右近の列福は、新しい福者の姿を示すことになる。ここでよく出される問題、つまり、武士として生きた右近は人を殺害したと思われる中、果たして現代のキリシタンの模範としてふさわしいかということに集中して述べたい。

1. 右近の時代背景

右近は400年前を生きた人であり、現代の基準や概念で批判することは妥当ではない。長い戦国時代が過ぎようとした16世紀後半の日本で「武力に頼る秩序」が続いたようである。殉教する前に京都滞在のペトロ・パウチスタ神父(1545〜1597)は、京都で磔刑された100人余りの姿を見たとき記したほどである。当時のヨーロッパでも処刑が行われていたが、パウチスタ神父は、日本で簡単な理由でも処刑される人数に圧倒された。ヴァリニャーノ神父(1539〜1606)も当時の日本には殿の決定以外、決まった法律がないと述べている(長崎より、1580年8月15日付総長宛ヴァリニャーノ書簡)。

戦争のみならず、犯罪者処分も、自分の良心に従って処分するはかなかった。なお、右近にキリシタン大名としての行動に特徴があったことは間違いない。一例として、社会福祉的な活動を促したのみならず、自分でもその模範を示した。フロイスはその一面を、以下のように記した。

そうして、新しいキリシタンたちにこの信心深い習慣がいつまでも取り入れられてゆくように、軽蔑されている賤しいヒジリたちの代りに、彼と彼の息子である城将右近殿とがその棺を肩に担いだ。このことは日本人の傲慢不遜にしてはめつたに見られない例で、その場に居あわせたすべての人びとと、後でそのことを聞いた異教徒たちの心を大きな驚嘆をもって満たし、果然とさせた。(略)それから、貴人たちがこの埋葬に手伝うことが彼等にはずっと風習になった。(フロイス・ルイス、『日本史』5、柳谷武夫訳、平凡社、1995年7月、120頁)

このように、右近は学んだキリスト教を当時の社会に通じる形で創造的に活用していた。それより難解な問題であった処刑に關しても深く考えたに違いない。以下にその考察をしたい。

2. 日本での処刑、ヨーロッパの権力者との比較

日本の統治が宣教師たちにとって受け入れにくかったように、宣教師たちが伝えたキリスト教も日本人に受け入れにくかったはずである。多くの場合、その宗教を受け入れ、その教えと共同体に関わりながら初めてキリスト教の本質と付属的なものの分別がつき、キリスト者としての生き方を選ぶことになる。フロイスの『日本史』は、右近の学ぶ姿勢を伝えている。

ジュスト右近殿はたいそう敏活明晰な才智ときわめて稀な天分とをそなえた若者であった。彼は異教徒たちに行なわれたカテキスモの説教を続けて聴き、彼等からもちだされるいろいろな疑問に対して与えられる答を聴いていたので、デウスの事に対する嗜みもその知識もいちじるしく進歩し、後に彼は訓練を積んだ説教家となり、彼のすぐれた徳によってみやこ地方のキリシタン教界全体の柱となった。彼はデウスの事について話すときは実に流暢で淀みなく、かつ弁舌爽やかであったので、彼の話を聴く者は彼の家臣たちも縁もゆかりもない異教徒たちも皆それ驚いた。(『日本史』5、116頁)

3. 倫理基準が不明な場合とその適用

ヨーロッパの中世でも、城主間の戦争、あるいは十字軍のように外国の遠征などに対する倫理問題が研究されていた。一例として、ヴィトリア師(1492頃〜1546)は、1557年の『神学考察』に「家臣は不正な戦争であると確信していればそれに参加してはならない」(Victoria RELECTIONES THEOLOGICAE, XII, De Iure Belli, prop. 22, Lyon, 1557より拙訳)と書き、当時でも戦争に關して盲目的な従順から離脱していた倫理を現している。しかし、日本にそのような法律を適用したとき、さまざまな倫理問題が生じた。

ここで、「正戦」の是非問題を考察したい。これに關して宣教師たちは相談されること

が多かったようである。協議するために津佐で1590年に開かれた「日本イエズス会第二回総協議会」(『キリシタン研究』一六輯の259頁)でもこの問題が話題になった。その諮問第三、「日本人領主の間に絶えず行われている戦争問題に介入せず、しかもなおキリスト教界の利益と保持に対する我々の義務を遂行するために取らねばならぬ方法について」に、教会関係者が政治的な争いに参加することによって結果として正義に反することになる、また不信任をもたすといった理由が挙げられる。

具体的な問題のために「相談委員会」が立ち上げられ、神父3人が選ばれた。また、それを補うため、ヨーロッパの専門家に相談することにした。この史料が現存する。当時ヨーロッパで尊敬されていた倫理の専門家、ガブリエル・バスケス(1551〜1604)宛の「日本の倫理上の諸問題について」という史料が現存する(川村信三翻訳、ガブリエル・バスケス著「日本の倫理上の諸問題について」、中世思想原典集成20 平凡社 2000年 965〜995頁)。宣教師たちは大名の戦いにおいての正戦か不正戦について疑問がある場合、どう答えるべきかについての問いに対するバスケス師の答えを見よう。

25. この人々(家臣たち)に対して「正戦の是非」断言する必要がある。というのは、彼らは正戦であるかどうか調べられる立場にないからである。しかし、その戦いの正しさに対して意見を尋ねられたら曖昧な返事をせずに真実の利益や便利さのみにについて相談を受けた場合、上述通り述べるべきである。

高山右近自身が宣教師に相談したとすれば、上述のような返事を受けたらどう。バスケス師の返事を解釈すれば、日本の状況にキリスト教の倫理が適用可能であれば、それを促し、適用可能でなければ、相談する人の良心の呵責を避けるような内容である。言うまでもなく、相談できない場合、あるいは宣教師の相談なしに行われた戦いの方が多々あったに違いない。結論として、①キリシタンになった日本人は多くの繊細な倫理問題について宣教師に相談していた。

②日本の宣教師はヨーロッパの専門家に相談するほどに難解な状況があった。

③日本のキリシタンはその宗教に適う良心的な生活をしようとした。

このように、自分の下に多くの人間が置かれた右近にも難解な倫理問題が迫り、良心的に自分で判断しなければならなかったことが想像できよう。なお、高山右近ほど難問に対して明白な答えを出したキリシタンがいなかったと私は評価する。父や宣教師に対しても、外国に追放されたときも、理念を通した人生を送った(拙稿、「識別に生きたキリシタン大名 高山右近」『キリシタン文化研究会会報』135号、2010年を参照)。右近は倫理的な判断に迫られる場面を体験した。青年時代から、和田惟政との関係では命に關わる乱世を体験し、辛うじて生き残ったことを神からの使命として受けとったようである。右近は直接接していた荒木村重とその上に立つ信長の対立の際、宣教師から回答が得られない中、全部を捨てて隠居するという判断をし、身内と教会を守りながら信長から譽れを受けた。追放されてからも、加賀の前田氏に仕えながら教会の発展を支え、当時の信徒にしては珍しく1カ月の靈操をし、マニラに改易されるまでキリシタンと神父たちを守った。マニラに着いてから亡くなるまで修道者に似た生活を送りながら家族のメンバーを励まし、自分が去った後への準備をさせるなど、キリシタンとして、人間としての模範を残した。

終わりに

高山右近の政治倫理を注目したところ、当時の社会と分離できないことが明らかにした。彼の生き方がそのままというよりも、現代に通用する部分があると気付かされる。右近は自分の国や文化を捨てようとしなかった。それより、キリシタンの教えを日本の文化に導入しようとした。右近はフィリピンに改易されてからも日本人、キリシタン、父親、大名であり続けた。右近も日本的なキリスト教が必要だと気付いたからこそ、新しい理念を生み出すことができたと思う。彼は、統合する能力を示したと解釈できよう。順応化がそれぞれの文化、人に神が既に働いておられる事実の確認であるとすれば、右近こそ順応化の先駆者であったといえよう。右近は識別的な信仰を育み、自分にしかできない使命を見ぬいたからこそ、敵味

方相互からも尊敬される指導者になった。右近はその時代に与えられた識別の要素を正しく、良心的に用いたことが確認できる。右近を福者に認定することは、彼が限界を持った人間、罪人であった事実を否定することではない。むしろ、そのような限界を持った人を通して素晴らしい姿を現す神の手を認めることになる。

右近が残してくれた大事な教えの一つは、どの時代にも対話なしに人間同士の理解があり得ないということであろう。彼は当時の権力者と家臣のみならず、先輩と宣教師とも積極的に対話したからこそ、自分の信念を貫いたと解釈できよう。歴史を通して右近のような人物と対話することができるとすれば、その人についての資料を知ることが最初の一步であろう。しかし、右近はそれに止まらず、その対話を基にしたように、彼の模範を仰ぎながら現代の一人一人にできない生き方を見いだす姿勢が求められている。

教区本部事務局主催

いつくしみの特別聖年「特別講座」

日時 毎週火曜日 19時〜20時
(2/2〜11/15 まで全32回)

場所 カトリックセンター

参加費 1回 100円

内容

- ①『黙想ノート』を使って聖書を分かち合う
- ②大勅書『イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔』を読み深める
- ③『教会の社会教説綱要』の解説

*黙想ノートと大勅書は各自でご用意ください(講座当日に購入可)

申込・問合せ先 教区本部事務局

TEL095-842-4450 FAX095-842-4460

日本の聖母降誕150周年記念式

そしてサンタ・マリアがいた

—キリシタン復活物語—

2016年2月20日 開演 18:30
21日 開演 12:00

■新上五島町 石油備蓄記念会館
■整理券は上五島地区の各教会で(無料)

監督・脚本 古舘 隆 演出 岡部 長崎中地区信徒
主催 カトリック長崎大司教区 上五島地区司祭団 協賛 上五島地区評議会

2015年12月8日（火）～16年11月20日（日）

「いつくしみの特別聖年」の過ごし方

大司教 ヨセフ 高見三明

フランススコ教皇様は、2015年4月11日（土）、「神のいつくしみの主日」の「前晩の祈り」の折に、2015年12月8日（無原罪の聖母の祭日）～2016年11月20日（主であるキリストの主日）を「いつくしみの特別聖年『Jubileus Extraordinarius Misericordiae』と定めると公表されました。同じ日付で、いつくしみの特別聖年公布の大勅書『イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔』（カトリック中央協議会、2015年7月発行。以下「大勅書」）が公布されました。

12月8日は「無原罪の聖マリア」の祭日です。神のいつくしみが最も力強く効果的に示されるキリストの誕生および死と復活を準備するために、神はマリアを備えてくださいました。ある意味で、神のいつくしみの計画の出発点にある、この祭日が、いつくしみの特別聖年の出発点となるよう祈りたいと思います（大勅書3）。

2015年12月8日は、第2バチカン公会議が閉幕してちょうど50年目に当たります。公会議で打ち出された刷新は半世紀たってもまだ道半ばの観がありますし、むしろ問題がますます増え、複雑になってきています。このような時代にあつて、わたしたちキリスト信者は、特権や嚴格さをいつくしみに転換し、現代の人々に神のいつくしみを実際に伝えるようにならなければならぬのです（大勅書4）。

わたしたちの教区においては、教区シノドスの提言の実施と合わせて、この特別聖年をより有意義に過ごすために、以下のような要領で過ごすよう努めていきたいと思ひます。

1 特別聖年公布の大勅書を熟読玩味する

教皇様は、大勅書の中で、この特別聖年

の趣旨や目的を述べておられます。ですから、まずこの冊子を繰り返しよく読むことをお勧めします。個人的に読むだけでなく、小教区内の地区や班、あるいは修道院や会や団体と一緒に読んで分かち合いをすることをお勧めします。分かち合うのは、内容を取り違えたりしないで、互いによく理解し、確認し合うためです。

2 いつくしみの扉（門）を通して出入りする

(1) 聖なる扉
教皇様は、2015年12月8日に聖ペトロ大聖堂の聖なる門（Porta Sancta）を開き、13日にはローマ教区の司教座聖堂であるラテラノの洗礼者聖ヨハネ大聖堂の聖なる門を開かれます。同じ日に、城壁外の聖パウロ大聖堂と聖マリア大聖堂の聖なる扉が開かれます。

(2) いつくしみの扉

全世界のすべての司教座教会では、12月13日に「いつくしみの扉（Porta Misericordiae）」が開かれます。

長崎教区においても、浦上教会と他の6つの地区長教会、大浦教会と聖フィリッポ教会（日本カトリック長崎・西坂巡礼所）で「いつくしみの扉」が開かれます。

これからのおよそ1年間、このいつくしみの扉を通して出入りしながら、いつくしみの恵みをいただき、教区シノドスを実施し、他の人々と分かち合うことによって霊的刷新を行いたいものです。

3 巡礼指定教会を巡礼して祈る

長崎教区で、12月13日（日）に「いつくしみの扉」が開かれる教会は下記の通

りです。同時に、これらの教会を巡礼指定教会とします。

また、聖書を読んで神のことばに親しみ、ゆるしの秘跡をより頻繁に受けるように努めましょう。

- ① 浦上司教座教会（カテドラル）
- ② 中町教会
- ③ 滑石教会
- ④ 相浦教会
- ⑤ 平戸ザビエル記念教会
- ⑥ 青方教会
- ⑦ 福江教会
- ⑧ 大浦教会
- ⑨ 聖フィリッポ教会（日本カトリック長崎・西坂巡礼所）

4 免償を受ける（大勅書22）

(1) 免償とは
免償とは、すでに赦された罪に伴う有限の罰の免除（軽減）です。信者は、一

定の条件を果たすとき、これを自分のために、また死者のために、教会の奉仕職を通して獲得します（『カトリック教会のカテキズム要約（コンペンディウム）』312、『カトリック教会の教え』220～221頁参照）。

神のいつくしみは、人間を受け入れ、赦し、犯した罪を完全に忘れてくださる御父のみ顔のうちに、人間一人ひとりに訪れます。免償を体験し、得るために、信者は、真の回心を心の底から望んでいることと表れとして、すべての司教座聖堂、教区司教によって指定された教会、そしてローマの4大聖堂（バジリカ）の中で開かれる「聖なる扉」を小巡礼するよう招かれています（大勅書3、14）。

(2) だが？
a 免償を受けたいと望むすべてのカトリック信者

b 「聖なる扉」をくぐることができない人々
とりわけ病者や、自宅にこもりがちにひとり暮らしの高齢者にとつて、主に近づく体験として自らの病氣と苦しみ

に耐えることは、彼らにとつて大きな助けとなるでしょう。主は受難と死と復活の神秘のうちに、痛みと孤独に意味を与える崇高な道を示しておられるからです。その試練の時を、信仰と喜びに満ちた希望のうちに生き、たとえさまざまなメディアを通してであつても、霊的聖体を拝領し、ミサや共同体の祈りに参加することは、彼らが免償を受けるための方法となります。

c 受刑者

聖年には、つねに恩赦を受ける機会が制定されてきましたが、その中には、刑罰を受けるに値しながらも、自らが犯した不正義を認め、心から社会に復帰することを望み、そのために熱心に努めている多くの人々が含まれます。

受刑者は刑務所の礼拝堂で免償を受けることができます。自室の入り口を通るたびに自らの思いと祈りを御父に向ける姿勢が、彼らにとつて、聖なる扉をくぐることを意味するものとなりますように。神のいつくしみは、人々の心を変えることも、また服役期間を自由な体験に変えることもできるからです。

d 亡くなった方々のため

聖年の免償は亡くなった方々のためにも受けることができます。わたしたちは、死者が残した信仰と愛のあかしによって、彼らとつながっています。したがって、ミサで死者を思い起こすたびに、聖徒の交わりの神秘のうちに死者のために祈ります。御父のいつくしみ深いみ顔が、あらゆる過ちの残存から彼らを解放し、永遠の祝福で包んでくださいますように。

e 墮胎を行った人

教皇様は、この聖年の間、墮胎の罪について、心から悔い改め、ゆるしを願っている人の罪をゆるす権限を、いかなる状況においても、すべての司祭に与えます。

f 聖ピオ十世会の司祭からゆるしの秘跡を受けた信者
教皇様は、いつくしみの特別聖年の間に聖ピオ十世会の司祭からゆるしの秘跡を受けた信者の罪のゆるしを、有効かつ合法なものとすることを認めます。

教皇様の意向のために祈りましょう

2015 年	
12 月	神のいつくしみの体験 ゆるされた体験のない人々が、神のいつくしみに触れることができますように。
2016 年	
1 月	諸宗教対話 信仰を異にする人々の誠実な対話が、正義と平和をもたらしますように。
2 月	被造物への配慮 無償の贈り物として神から与えられた被造物を、のちの世代のために適切に守り育てていくことができますように。
3 月	困難な状況にある家庭 困難な状況にある家庭に必要な援助の手が差しのべられ、子どもたちが健全で平和な環境のうちに育ちますように。
4 月	小規模農家の人々 小規模農家の人々が、貴重な労働に対する正当な報酬を得ることができますように。
5 月	女性への尊重 いずれの国においても、女性が尊敬され、尊重され、そのかけがえのない社会貢献が高く評価されますように。
6 月	連帯 たとえ世界の巨大都市にあつても、高齢となった人々、軽んじられている人々、孤独な人々が、出会いと連帯の機会に恵まれますように。
7 月	先住民族 アイデンティティばかりか、その存在自体までもが脅かされている先住民族の人々に、尊敬の念が向けられますように。
8 月	スポーツ スポーツが友情を育むよい機会となり、世界平和に貢献することができますように。
9 月	人間中心の社会 私たち一人ひとりが、共通善のために、また人が常に大切にされる社会の建設のために、尽くすことができますように。
10 月	ジャーナリスト ジャーナリストが、仕事をするうえで常に真実を尊重し、倫理に忠実な姿勢を保つことができますように。
11 月	難民を受け入れる国々 移民や難民を数多く受け入れて連帯を示している国々が、その努力にふさわしい支援を見いだすことができますように。
12 月	「子ども兵士」の撲滅 「子ども兵士」という不正な実態が、一刻も早くこの世界からなくなりますように。

(3) どうぞ？

a 長崎教区の場合、大司教が指定した、上記の巡礼教会です。

b 巡礼教会に行くことができない人も、それぞれの場で受けることができます。

(4) どんな条件で？

a ゆるしの秘跡とミサに参加する
いづくしみに関する振り返りの
もとに行われるゆるしの秘跡とミ
サと結びついていることが何より
もまず重要です。

ゆるしの秘跡とミサへの参加

は、できれば巡礼指定教会で行わ
れることが望ましいが、それがで
きないときは自分の小教区など、
他の教会でも可能です。大切なこ
とは実際に参加することです。

b これらの秘跡は、信仰告白(「使
徒信条」あるいは「ニケア・
コンスタンチノープル信条」、
教皇様のための祈りを伴う必
要があります。

c 教皇の意向のために祈る

教皇様が教会と全世界の幸せの
ために心に抱いている意向のため

慈悲の所作、すなわち「第二肝要の事」

《身体に関する所作》

- 一、飢えたる者に食を与える。
- 二、渴したる者に飲物を飲ます。
- 三、裸の者に衣類を与える。
- 四、病人をいたわり見舞う。
- 五、旅人に宿を貸す。
- 六、囚人の身元引受人になる。
- 七、無縁の死骸を納骨する。

《精神に関する所作》

- 八、人に良き意見を加える。
- 九、無知なる人に道理を教える。
- 十、悲しみの者をなだめる。
- 十一、折檻すべき者を折檻する。

の祈りを伴う必要があります(前
頁表参照)。

5「いづくしみの特別聖年のた めの祈り」を唱える

個人で、家庭で、また小教区の主日
のミサの時などに皆で唱えるよう
にしてください。

なお、「教区シノドスの実りのた
めの祈り」も週日のミサ、できれば
主日のミサ、あるいは他の機会に唱
え続けるようにいたしましょう。

6「いづくしみのわざ」を行う

教皇様は、大勅書の中で、次のこと
を強調しておられます。

a 人を裁いたり、罪に定めたりし
ないこと(14、20、21)

b さまざまな傷を負いながら生
きている人々に心を開き、耳を
傾け、近づくこと。具体的な例
として、キリシタン時代の信徒
の自発的な信心会「ミゼリコ
ルヂヤの組」「サンタ・マリア
の組」などの「慈悲の所作」
があります(15)。

c 他の宗教の人々と対話するこ
と(23)。

新年の集い

修道女会在俗会連盟



りました。

続いて高見大司教様
の講話があり、結婚や
家庭についての教会の
教えと現実が乖離してい
る中で、「神のいづくし
み」をどのように受け止
めるべきかを話されまし
た。「人を愛するとは、そ
の人を条件なく大切にし
たいと思うこと。それは
具体的な行動が伴わなけ
ればならない。」また「愛
は日々の出来事の中で積
み重ねられていくもので
あり、イエス様のように
その人に触れ、その人の
必要を満たしてあげるこ
と」を、聖書や聖人たち
の模範を示しながら、分
かりやすく説明してくだ
さいました。

講話の後、大司教様司
式ミサで110人余の参
加者は奉献の誓いを新た
にして出発の日といたし
ました。

書記 深堀光子
(聖マリア在俗会)

マリアを教育の理想に

純心女子学園創立80周年

【記念式典】

昨年12月
5日(土)長崎ブリック
ホール(長崎市)大ホー
ルに来賓、学生・生徒、教
職員、関係者約2000
人が出席。来賓を代表
して高見三明大司教富
岡勉文部科学副大臣、中
村法道長崎県知事、田上
富久長崎市長が原爆の焦
土の中からの学園の再建
の歴史とカトリックミッ
ション校としての80年の
堅実な歩みに祝意を述べ
た。

なお、「ミゼリコルヂヤの組」は、
1240年頃、イタリアのフィレンツェ
で始まり、その後ポルトガルリスボ
ンに本部が置かれ、そこからイエズス
会宣教師によって日本に導入された。

6人が終生誓願宣立

お告げのマリア修道会

成人式の祝いで賑わう

1月11日(月)、お告げの
マリア修道会本部聖堂で
終生誓願式が高見三明大
司教主司式で行われた。
福岡教区の宮原良治司
教をはじめ、教区内外か
らの60余人の司祭による
共同司式の中で、終生誓
願を宣立した6人は以下
の通り。マリア・コルベ
岩田真里亜(湯江)、マリ
ア永田亜希(紐差)、マリ
ア藤原真都華(上神崎)、
マリア江口しの(桐)、フ
ランシスカ岩崎香須美
(神ノ島)、マリア山崎裕
子(三井楽)。

それぞれの家族、恩人、
友人は、奉献生活を生涯
にわたって生きる誓いを
立てる姉妹たちを見守
り、聖堂は熱心な祈りと
感謝で満たされた。式後
は会場を移し、食事を共
にしました。



【感謝ミサ】

12月8日
(火)無原罪の聖マリア
の祭日は学園創立記念
日。浦上教会に学生・生
徒、教職員が一堂に会し、
中・高校は午前8時30分
から久志利津男師(浦上
主任)の司式により、大
学・大学院は午前11時か
ら高見大司教司式による
創立80周年記念感謝ミサ
がささげられた(写真)。



ミサ終了後、学園創立
80周年記念コンテストの
賞状・賞品授与、クラブ
活動・ボランティア活動
などの表彰を行って日頃
の研さんをたたえた。

【展覧会】

12月1〜13
日、長崎県美術館県民
ギャラリーを会場に、「創
立80周年記念展覧会『純
心ゆかりの作家・長崎ゆ
かりの作家』展」を開催。
長崎純心大学博物館所蔵
品の中から学園とゆかり
の深い画伯、長崎で活躍
した画家の作品と工芸品
に加え、同館所蔵の清島
省三コレクションの一部
を初公開、内容の濃い展
覧会となっていた。併設
の「純心造形展」では学
園の活発な創作活動が紹
介されていた。

2016年〈春〉 結婚講座のご案内 教区家庭委員会

カトリック教会で結婚することの
意味を学びながら
対話を通して2人の関わりを深め
幸せな結婚生活をめざして
心の準備をしていきます

- ◆日時 4月5日～6月14日 午後7時～9時
*毎週火曜日の連続10回(5/3を除く)
- ◆場所 カトリックセンター2階講堂
- ◆受講費 1人8,000円(当日受付にて)
- ◆定員 40名(20組になり次第、締め切ります)
- ◆申込方法 「申込書」に必要事項をご記入の上、郵送で
下記へお申し込みください。詳細は主任司
祭にお尋ねください。
- ◆申込先 〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内「家庭委員会」
- ◆連絡先 Tel 095-842-4450 Fax 095-842-4460
(担当:辻)

回	月 日	講 師	テーマ	内 容
1	4月 5日	司 祭	カトリック教会の結婚観と愛	開講式
2	12日	信 徒	夫婦愛を育てる新婚時代	「対話の道しるべ」を使って、互いに対話の実習・作業などを通して学んでいきます。
3	19日	信 徒	カップル間に豊かな対話を	対話の大切さを学びつつ、互いに感情を言葉で言い表すことを学んでいきます。
4	26日	信徒夫妻	愛を育てる家庭経済	「あなたはかけがえのない」人であることを学び、互いに愛を分かち合っていきます。
5	5月 10日	医療関係者	素晴らしい性といのち	「神は人を男と女とに造られた」という、そのいのちの神秘を味わいつつ、互いのいのちを尊重していきます。
6	17日	医療関係者	2人で迎える新しい《いのち》	「ビリングス・メソッド」排卵法を学び、生まれてくる新しいいのちを育む大切さを学んでいきます。
7	24日	信徒夫妻	よりよき夫と妻、父と母を めざして	いのちの誕生の神秘とその喜びを学び、より良き妻、夫となることの素晴らしさを学んでいきます。
8	31日	信 徒	2人で歩む道の価値観	いのちの叫びと生まれてくることの喜びを心から受け止め、2人で分かち合っていきます。
9	6月 7日	司 祭	結ばれた2人の道	「神が結び合わせたものを人が離してはならない」という教えを心に留めて、最後まで歩み続けましょう。
10	14日	司 祭	カトリック教会における異宗婚	修了式

第5期各部の取り組み

シノドス提言を受けて

教区シノドス提言の実現に向け、その土台作りとなる第5期(2015・17年度)も1年を過ぎようとしている。今期の取り組みについて3人の部長に語っていただいた。

召命への意識と関心を

教会奉仕者等養成部

眞浦健吾師



信徒発見の年から、当時の宣教師たちは、将来、必ず邦人司祭による司牧が日本の教会を支えることになる」と判断し、即、その年の暮れに3名の神学生を司祭館の屋根裏部屋に住ませ、神学校を始めたといわれています。その時が、聖母マリアの無原罪の御宿りの祝日頃でしたのでその日が

信徒発見の年から、当時の宣教師たちは、将来、必ず邦人司祭による司牧が日本の教会を支えることになる」と判断し、即、その年の暮れに3名の神学生を司祭館の屋根裏部屋に住ませ、神学校を始めたといわれています。その時が、聖母マリアの無原罪の御宿りの祝日頃でしたのでその日が

信徒発見の年から、当時の宣教師たちは、将来、必ず邦人司祭による司牧が日本の教会を支えることになる」と判断し、即、その年の暮れに3名の神学生を司祭館の屋根裏部屋に住ませ、神学校を始めたといわれています。その時が、聖母マリアの無原罪の御宿りの祝日頃でしたのでその日が

信徒発見の年から、当時の宣教師たちは、将来、必ず邦人司祭による司牧が日本の教会を支えることになる」と判断し、即、その年の暮れに3名の神学生を司祭館の屋根裏部屋に住ませ、神学校を始めたといわれています。その時が、聖母マリアの無原罪の御宿りの祝日頃でしたのでその日が

救いのわざの協力者に

信仰養成部

中濱敬司師



信仰養成部では、『教区シノドス提言書』に基づき、基本方針Ⅱ「キリストとの出会いを求めて」祈りと信仰教育の再興―提言6「信仰教育

信仰養成部では、『教区シノドス提言書』に基づき、基本方針Ⅱ「キリストとの出会いを求めて」祈りと信仰教育の再興―提言6「信仰教育

信仰養成部では、『教区シノドス提言書』に基づき、基本方針Ⅱ「キリストとの出会いを求めて」祈りと信仰教育の再興―提言6「信仰教育

信仰養成部では、『教区シノドス提言書』に基づき、基本方針Ⅱ「キリストとの出会いを求めて」祈りと信仰教育の再興―提言6「信仰教育

「ミゼリコルディア(憐れみ)」を生きる「出向いて行く教会」

福音化推進部

紙崎新一師



左に立派なカリスの絵があります。少し視点を変えると、カリスの左右に人々の顔が見えてくるでしょう。今、教会は信仰の視点を考える大切なトキを迎えています。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。



「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「ミゼリコルディア(憐れみ)」を生きる「出向いて行く教会」

福音化推進部

紙崎新一師

左に立派なカリスの絵があります。少し視点を変えると、カリスの左右に人々の顔が見えてくるでしょう。今、教会は信仰の視点を考える大切なトキを迎えています。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

「教会の歴史は新しい段階へと移りました。……あまりに長い間教会を特権のとりでに閉じ込めていた壁が崩れ、新たな方法で福音を告げる時が到来していたのです」(4)と第2バチカン公會議を回想しながら、教会は「ただ正義のみを要求したいという欲求が、(いつくしみを生きていることを)忘れさせてしまった」(10)……「兄弟の弱さ」と苦しみを引き受けるために、本質へと立ち帰る時が来ています」(同)と語ります。

カトリック教報 『福音宣教』2016年のご案内
テーマ 神の国の幸い―「真の喜び」に出会う
■年間特別対談
証しの人 ユスト高山右近―列聖列福へ向けて
レンゾ・デ・ルカ＝五野井隆史／高橋敏夫／前田万葉
■新連載 菊地 功 神谷秀樹 坂野正則 森 裕子
年間購読料 6,300円(年11回／8・9月合併号)
申込み 郵便振替用紙で購読料を振り込み
振替口座 00170-2-84745
問合せ オリエンス宗教研究所
〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5
Tel 03-3322-7601 Fax 03-3325-5322
http://www.oriens.or.jp/
*カトリック書店でも購入可(1部500円+税)

なが さき せき ちょう
石 碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲
長崎石彫
ヨゼフ 岩永 博明
☎(095)862-2469
長崎市梁川町6-17 岩永ビル

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者 マリア 大島睦子
(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095-822-8436
FAX 095-822-8488

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
(見積り無料・荷造り発送も致します)
24時間営業・年中無休
受付時間 7:00~22:00
水浦運送
シモン 水浦 幹雄
長崎市上野町12-3
TEL(095)847-7151
844-1420

カトリック婚活支援パーティー
2016年4月3日(日)13時から滑石教会信徒会館にて
対象 カトリック信者で初婚の方 参加費 1,000円
人数 男女各20名(定員) 締切 3/27(日)17時
申込 カトリック滑石教会 婚活支援部(滑石教会の申込書に記入・提出していただき、電話確認後受け付け)
問合せ Tel.095-856-8623 Fax095-856-8603(滑石教会)
✉e-kekkon@jupiter.ocn.ne.jp ☎090-6293-2408(畑原)

ステンドグラスを設置

真手ノ浦小教区設立40周年に



昨年11月8日(日)、真手ノ浦教会のステンドグラスが高見三司大司教によって祝別された。ステンドグラスの設置は信徒がかねてより希望していたもので、現在の3代目教会堂の建立から5年を迎えるとともに小教区設立40周年にもあたる節目の年に実現した。

ステンドグラスのテーマは「宇宙万物―神の計画」。マは「宇宙万物―神の計画」の計画。ガラスに熱を加え、重ね合わせたり曲げたりして加工する立体フュージングという技法を用い、函館市在住のステンドグラス製作者、藤井絹子さん(元町教会信徒)が手掛けた。

主任の山内実師は「神は宇宙万物を創り、愛の営みに参加するようにされましたが、人類は神の愛から離れてしまいました。そこで、父なる神はイエスをこの世に遣わされたのです。キリストのご受難・ご死去・ご復活を通して、再び人類は神の愛の交わりに参加することができるようになりました。ステンドグラスはこの救いの計画を十字架像と共に示しています。まさに信仰の原型を示すもの」と話している。

大槌ベースボランティヤ募集

●3月10日(木) 16日(水)
●4月14日(木) 20日(水)
●5月12日(木) 18日(水)
(4/13締切)
申し込みは所属小教区へ。問い合わせは教区本部事務局(松尾)まで。

TEL 095・842・4450
FAX 095・842・4460

よりよい祈りの場へ

平戸・古江教会が献堂25周年

江教会(平戸小教区)は、

から歴史は110余年

献堂25周年を迎えた古江教会(平戸小教区)は、献堂日の前日に当たる12月20日(日)に記念のミサを行った。

主任の山田聡師は説教の中で、「かつて浦上の信徒たちは、配流先から帰って来た時に、自分の家よりもまず教会を建てました。教会の中でミサや祈りがささげられることは、信者にとって



教会に親しむ機会に

上五島の6教会でコンサート

12月8日から13日にかけて、上五島地区の6つの教会を会場に「チャーターウィーク in 上五島教会コンサート」が開催された。

主催は「探訪」四季を味わう上五島実行委員会「で新上五島町観光物

に及び、これからも続きます。よりよい祈りの場としてふさわしくな

ていくよう共に祈りながら、建設に携わった方々のために感謝をこめてこの御ミサをささげましょう」と語った。

通夜は8日、葬儀・告別式は9日、いずれも大浦教会で次男の下山盛朗師の主司式のもと執り行われた。葬儀ミサは30人のためだと思ひます。自分のためでなく、ただ子どもたちのためだけに、その身を削り身を粉にして働いていました」と語り、生前良くしていた大浦教会の信徒の皆さんと多くの参列者に感謝を述べた。

ながら、「母は一言でいうと、大変働き者の母で、5人の子どもを育てるため必死で働いていたのだと思ひます。自分のためでなく、ただ子どもたちのためだけに、その身を削り身を粉にして働いていました」と語り、生前良くしていた大浦教会の信徒の皆さんと多くの参列者に感謝を述べた。



で聖堂はいっぱいになり、曲の演奏が終わるたびに堂内は拍手に包まれた。この企画は新上五島町民がクラシック演奏に触れるまたとない機会であり、教会を初めて訪れる人々に親しんでもらう機会でもある。参加者の一人は「聖堂で演奏することを意識した曲目を選ばれていて、じっくり演奏に耳を傾けることができたと話していた。

みことばにふれて

Sr. 平田知恵美 (お告げのマリア修道会)



保育園の職員室で仕事をしていると、毎日かわいなお客様が訪れます。それも窓から……。時計が午前10時半を回るころ、たどたどしい発音で「チッター!!」とつぶ声。「ハイ!!」と窓から顔を出すと、天使のようなおちびちゃんたちがヨチヨチ歩きで満面の笑みを浮かべながら、もみじのような手を振って自分の存在をアピール。そしてプランターの花を指さしながら、「×△□……」と宇宙人さながらのことばで夢中で話しかけてきます。「きれ

な花がさいているよ!」とでも言っているのでしょうか。しばしの間、天使たちの不思議な会話を聞き、腰をおろしたのも束の間、「チッター!!」とまたまた声が。戸外遊びから帰ってきた子ども

たちは賑やか。「すごい!」とこれに賑やか。お告げのマリア様も、きつと子どもたちのことが大好きだったに違いありません。福音宣教や弟子たちの教育で疲れて思い悩む日も、子どもたちの清らかな笑顔で心身共に癒やされていたことでしょう。イエス様は案外、保育士に向いていたかもしれませんね。

イエス様だったらどんな保育をしただろう。どんな言葉子どもたちにかけただろう。この問いかけは、毎日小さな命と向き合う私にとって、自分自身への問いかけでもあります。このみことばを読むたびに、いつも深い慈しみの心で子どもたちを受け入れられたイエス様の姿が思い出されます。そして、私も神様から託された一人ひとりの子どもたちを、愛をもって育んでいこうと心を新たに毎日を

1942年1月30日生まれ。井持浦小教区の立谷教会出身。中学卒業後、父の始めた運送業に従事。50歳を過ぎてからは、特別養護老人ホームで働き一男一女を養育した。熊川幸徳師によると「忍耐の人、ユーモアの人、信仰の人であった。人が大勢集まると、歌ったり踊ったりして皆を楽

1942年1月30日生まれ。井持浦小教区の立谷教会出身。中学卒業後、父の始めた運送業に従事。50歳を過ぎてからは、特別養護老人ホームで働き一男一女を養育した。熊川幸徳師によると「忍耐の人、ユーモアの人、信仰の人であった。人が大勢集まると、歌ったり踊ったりして皆を楽

1942年1月30日生まれ。井持浦小教区の立谷教会出身。中学卒業後、父の始めた運送業に従事。50歳を過ぎてからは、特別養護老人ホームで働き一男一女を養育した。熊川幸徳師によると「忍耐の人、ユーモアの人、信仰の人であった。人が大勢集まると、歌ったり踊ったりして皆を楽

http://www5.cncm.ne.jp/~ngs-ch



12月18日、肺炎のため五島中央病院で逝去。73歳。

12月17日に逝去。92歳。12月19日に津教会で

12月17日に逝去。92歳。12月19日に津教会で

12月17日に逝去。92歳。12月19日に津教会で

12月17日に逝去。92歳。12月19日に津教会で



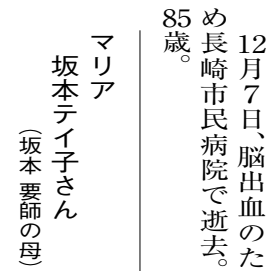
12月17日に逝去。92歳。12月19日に津教会で

12月17日に逝去。92歳。12月19日に津教会で

12月17日に逝去。92歳。12月19日に津教会で

12月17日に逝去。92歳。12月19日に津教会で

12月17日に逝去。92歳。12月19日に津教会で



12月7日、脳出血のため長崎市民病院で逝去。85歳。

12月7日、脳出血のため長崎市民病院で逝去。85歳。

12月7日、脳出血のため長崎市民病院で逝去。85歳。

12月7日、脳出血のため長崎市民病院で逝去。85歳。

12月7日、脳出血のため長崎市民病院で逝去。85歳。



12月7日、脳出血のため長崎市民病院で逝去。85歳。

12月7日、脳出血のため長崎市民病院で逝去。85歳。

12月7日、脳出血のため長崎市民病院で逝去。85歳。

12月7日、脳出血のため長崎市民病院で逝去。85歳。

12月7日、脳出血のため長崎市民病院で逝去。85歳。

長崎の教会群インフォメーションセンターニュース〔第4号〕

「長崎の教会群保存サポーター制度」の創設について
NPO 法人世界遺産長崎チャーチトラストでは、標記制度をこの1月創設しました。この制度は、世界遺産登録が見込まれる長崎の教会群の維持・保存に協力していただける方を広く募り、その方々による寄付や活動を的確に活用することにより長崎の教会群の整備・保存や周辺地域の活性化を目的としたものです。サポーターによる協力内容は、①一般寄付 ②売上寄付 ③清掃美化活動など、その他教会群の維持保存に有益と認められる活動で、個人、法人を問いません。詳しくは、NPO 法人世界遺産長崎チャーチトラストまで。

http://www5.cncm.ne.jp/~ngs-ch

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は

メモリー・ホーム・典礼会館・中央斎場

長崎・諫早・大村・佐世保

メモリー・ホーム・典礼会館・中央斎場

0120-44-6666

ご先祖に心より感謝を・・・

材石治明

長崎本店 長崎市民霊園内 電話 (095) 846-3598

大村店 大村市民霊園内 電話 (0957) 50-3008

「感謝のうちに―私のエンディングノート」

◆ 秘跡の豊かな恵みのうちに人生を見つめ、その思いを家族や友に伝えるために

◆ 通夜葬儀などのリクエストを意思表示するために

価 格 1,000 円 (税込・送料別)

問合先 教区家庭委員会 Tel 095-842-4450 (担当 辻)

公開典礼講座 DVD の貸出

昨年 11 月 15 日に開催された教区典礼委員会主催公開典礼講座(ミサ総則の一部変更)に備えての記録DVDを、ご希望の方に貸し出します。詳細は下記まで。

問合先 教区生涯養成委員会 (Tel 095-841-7731)